

# 日本医労連増員闘争ニュース

第 82 号

2010年4月28日

日本医労連増員闘争本部

TEL: 03-3875-5871

FAX: 03-3875-6270

## 「看護職員の労働実態調査」中間報告

# 報道の第2弾

【しんぶん赤旗 4/28】

2010. 4. 27

秋 田 さ き が け

### 日本医労連の看護職員調査

## 7割超が慢性疲労

### 3人に1人、切迫流産も

全国の看護職員約2万7千人の健康状態について日本医労連が実施した調査で、「慢性疲労」を感じているとした人が7割を超え、妊娠をしたことがある約3500人の3人に1人は、流産になりかけた「切迫流産」を経験したと答えたことが26日、分かった。

医労連は「人手不足は深刻で健康を害する人が増えている。特に人員増などによる労働条件改善を求める」としている。

調査は昨年11月～今年1

全国約2万7千人の看護職員について、健康状態を調査した。約6万人に調査票を配布し、約2万7500人が回答。女性が94%を占めた。

健康状態が「非常に不調」は11.2%、「やや不調」としたのは計37.8%。「疲れが翌日に残る」と答えた人は73.5%に上り、1888年の調査に比べ7.2%増えた。「健康に不安がある」と答えたのは61.8%で、徳福利や睡眠不足などの声が出ている。

一方、2006年4月以降に妊娠経験がある約3500人のうち「切迫流産」となった人が34.3%、「流産」は11.2%で、88年の調査に比べそれぞれ10%、7.5%増加。妊娠時に夜勤や当直を免除された人は66.7%にとどまり、「軽度な仕事への配置転換」19.4%、「つわり休暇」も7.8%と低かった。

3交代勤務の人で、昨年10月の夜勤が9日以上だった人は31.7%。回答者からは「心身共に疲労困憊。仕事を続ける自信がない」「人手が足りず良い看護が提供できない」との声が出ている。



記者会見で調査結果を発表する田中委員長（左から2人目）ら=26日、東京都内

### 医労連調査 過酷 看護職員

日本医療労働組合連合会（日本医労連）は26日、看護職員の労働実態調査中間報告を発表しました。看護職員に限定した労働実態調査は2000年、05年に続いて3回目。今回、2万7545人分の調査結果によると、慢性的ともいえる看護職員の絶対的な「人手不足」があると指摘。過重労働、健康不安の中での夜勤交代制勤務、思うような看護が

できない状態が、看護職員の意識を低下させて、離職を拡大させているとしています。

健康実態では、73.5%の人が「慢性疲労」を抱え、61.8%が「健康に不安」を感じています。妊娠時の状況では、切迫流産が34.3%と、1988年比で10%増加している。

また、約3分の2がサービス残業をしていると回答し、労働基準法違反が常態化していることがわかりました。業務内容は、「記録」60.2%、「患者への対応」51.8%などです。

夜勤回数は、3交代勤務で看護婦確保法にもとづく指針で示された「月8回以内」を超え「9回」以上が31

慢性疲労73% 切迫流産34% 3分の2がサービス残業

7%でした。2交代勤務でも、53%が「16時間以上」と答えています。

自由記載項目には、「人手不足と業務が多すぎて患者さんに多くかかわれない」「転倒や医療事故への危険が高い」など、深刻な声が寄せられています。

東京都内で記者会見した田中恵子委員長は、人手不足の解消に

むけて「労働条件を改善し、看護師がやめにくい職場をつくりたい。配置基準が低ければ配置できないので、診療報酬の引き上げを求めたい」と語りました。

# 看護職 7割慢性疲労

医労連調査 切迫流産3人に1人

全国の看護職員約2万7千人の健康状態について日本医労連が実施した調査で、「慢性疲労」を感じているとした人が7割を超え、妊娠をしたことがある約3500人の3人に1人は、流産になりかける「切迫流産」を経験したと答えたことが26日、分かった。医労連は「人手不足は写る人が増えるが、准看護師、保健師、助産師を対象に実施。約6万人に調査を配布し、計約2万7500人が回答。女性が94%を占めた。健康状態が「非常に不調」や「不調」とした人は計37.8%。疲れが翌日に残る「いつも疲れている」と答えた人は79.5%に上り、1988年の調査に比べ7.2割増えた。「健康に不安がある」は61.8%で、鎮痛剤や睡眠薬などを常用しているのは約6割に上った。

【河北新報 4/27・宮城より】

一方、2006年4月以降に妊娠経験がある約3500人のうち「切迫流産」となった人が34.3%、「流産」は11.2%で、88年の調査に比べそれぞれ10割、7.5割増加。妊娠時に夜勤や当直を免除された人は66.7%にとどまり、「軽度な仕事への配置転換」19.4%、「つわり休暇」も7.8%と低かった。

医療情報 2010年4月27日 読売新聞（新潟版）

# 看護職員 7割「慢性疲労」

「業務負担が増えた」6割

医労連調査

県医療労働組合連合会（県医労連）は26日、県内の看護職員の労働実態調査について発表した。県医労連に加盟する30病院の看護職員805人から回答があり、6割が「業務負担が増えた」、7割が「慢性疲労」と感じるなど、過酷な勤務の実態が改めて浮き彫りとなった。調査は、日本医労連が2009年末～10年1月に実施した。それによると、「最近、看護業務量が増えた」との回答が62.4%。1時間以上の残業をしている職員は4割近くで、年次有給休暇の取得は「年間5日未満」が過半数を占めた。「十分な看護が提供できている」と答えた職員は8.1%。「この3年間でミスをしたり、しそうなことになったことがある」が90.6%に上り、8割近くが「人員不足」「業務過密」だと訴えている。健康問題も深刻で、65.9%が「健康不安」、72.3%が「慢性疲労」を感じている。妊娠時に「切迫流産」の症状があった女性職員は30.4%に上った。県医労連は「看護職員の繁忙感が増しており、命を削りながら医療が支えられている状況」とし、近く県に働きやすい環境作りなどを訴えるという。

新潟

# 看護師7割、慢性疲労

## 日本医労連 調査 切迫流産3人に1人

全国の看護職員約2万7千人の健康状態について日本医労連が実施した調査で、「慢性疲労」を感じているとした人が7割を超え、妊娠をしたことがある約3500人の3人に1人は、流産になりかける「切迫流産」を経験したと答えたことが26日、分かった。

【中国新聞 4/27・広島より】

医労連は「人手不足は深刻で健康を害する人が増えている。国に人員増などによる労働条件改善を求める」としている。

調査は昨年11月、今年1月、全国の医療機関や介護施設で働く看護師、准看護師、保健師、助産師を対象に実施。約6万人に調査票を配布し、計約2万7500人が回答。女性が94%を占めた。健康状態が「非常に不調」「やや不調」とした人は計37.8%。「疲れが翌日に残る」「いつも疲れている」と答えた人は73.5%に上り、1988年の調査に比べ7.2ポイント増えた。「健康に不安がある」は61.8%で、鎮痛剤や睡眠薬など何らかの薬を常用しているのは約6割に上った。

一方、2006年4月以降に妊娠経験がある約3500人のうち「切迫流産」となった人が34.3%、「流産」は11.2%で、88年の調査に比べそれぞれ10ポイント、7.5ポイント増加。妊娠時に夜勤や当直を免除された人は66.7%にとどまり、「軽度な仕事への配置転換」19.4%、「つわり休暇」も7.8%と低かった。

回答者からは「人手が足りず良い看護が提供できない」との声が出ている。

【ナースウエーブ用、オリジナルタオルを作成・広島】



# よい医療 よい看護

## 広島県医労連